～平成22年度国内先進地視察を終えて～

農業委員会では、平成22年11月9日(火)～11日(木)の3日間、秋田・岩手・宮城県内で農業に関する先進的な取組みを見せている、以下の団体を視察しました。

◎1日目：秋田県大仙市 農事組合法人たねっこ
◎2日目：岩手県葛巻町 葛巻町農業委員会
◎3日目：　〃　藤沢町 ㈱館ヶ森アーク牧場
　　宮城県大崎市 あ・ら・伊達な道の駅

●蛭田　元起委員●

私達が2日目に訪れた葛巻町農業委員会は、委員15名、職員4名で活動し、遊休農地の解消に力を入れております。今回、最も印象に残ったのは、幼稚園児を「かがやくふるさとあとつぎ隊」と位置づけて、農業体験をさせていることでした。農業委員会では、この事業を「孫の手も借り隊事業」と称しています。解消した遊休農地に、委員と幼稚園児が7月にそばの種を蒔き、11月には収穫まつりを楽しむのです。

農家の後継者・嫁不足の問題が深刻化している今日において、小さい時から農業に慣れ親しませるということは、とても大事なことだと感じます。種蒔きや収穫まつりの写真を見せていただきましたが、園児達のいきいきとした笑顔が心に残る研修でした。

●遠藤　美喜子委員●

館ヶ森（たてがもり）アーク牧場の、60ヘクタールの敷地に広がる農場は観光地化されており、誰もがホッとする癒しの環境です。〝食はいのち〟を理念に掲げ、有機無農薬栽培に取り組む妥協を許さない生産姿勢に感銘を受けました。

6次産業化にいち早く取り組み、独自の発想で豚肉・たまご・野菜・小麦といった持ち駒を生かした商品開発をし、その良さを理解してくれるお客様に直販しています。そして日本の農業を元気にするという目的で、地元農家に遊休農地を利用して飼料米を生産してもらっています。それを農協が乾燥・調整し、アーク牧場で買い上げた後、飼料会社に委託して配合飼料を作ってもらっているのです。また、牧場で出た糞尿を、有機肥料として農家に還元するという「循環型農業」にも力を注いでいます。

一人でも多くの消費者に農場に足を運んでもらいたいという、生産者の方々の情熱がひしひしと伝わってきました。研修を通し、私たち農業者も、その精神を見習うべきだと強く感じています。

農地流動化情報 vol.12

農業委員会では、農地の有効利用促進を図るため、売買・貸借等を希望する農地の情報を提供しています。

■ 売りたい

農家の所在地	地目	面積(a)
平下大越字山ノ神(1筆)	畑	8
平下大越字正慶(2筆)	畑	9
平下大越字中ノ町(3筆)	田	31
平藤間字沼田(1筆)	田	10
平藤間字北町田(1筆)	田	7
平北神谷字御世作(5筆)	畑	30
四倉町狐塚字東(3筆)	田	29
四倉町狐塚字東(1筆)	畑	6

■ 貸したい

農家の所在地	地目	面積(a)
勿来町窪田八反坪(1筆)	田	27
四倉町大森字七反田(1筆)	田	10
小川町上小川字赤沼(3筆)	田	51

ご覧になって、この農地を『買いたい』あるいは、その他手続き等の詳細を知りたいという方は農業委員会事務局までお問い合わせください。

※また、今回掲載した農地以外にも売買・貸借等の意向がある方は、是非ご相談ください。

お問い合わせ：農業委員会事務局
☎22－7578

農業委員会のうごき

●第38回欧州農業事情視察団に参加

平成22年11月7日(日)～13日(土)までの7日間、ドイツ、フランスにおいて第38回欧州農業事情視察が開催され、本市農業委員会からは愛川善永農地部会長職務代理者が参加した。

ドイツでは、敷地面積が170ヘクタールもあり、エコロジーファームとして知られるヘルマンスドルフ農場を視察した。

フランスでは、農業会議所を訪問し、その後はシャンパーニュアルデンヌ地方の穀物農家の視察を行った。翌日には、活気あふれるパリの朝市を見学し、全国青年農業経営センターにて現在のフランス農業経営における課題や取組みについて説明を受けた。

▲パリの朝市の様子